



カテーテル治療(PCI)後パス開始

この度カテーテル治療(PCI)後の地域連携パスを紹介させていただきます。

現在、冠動脈疾患に対してはPCIなどで血行再建を行うことが可能となっております。特に急性心筋梗塞では迅速な対応が患者様のその後の生活を改善します。一方PCIやCABGは病変部位の血行を改善するものの、動脈硬化進展の抑制効果はなく、長期的な再発予防にはその後の管理が重要です。禁煙や減塩、適度な運動など包括的な生活習慣の改善に加え、適切な薬物療法が必要です。

当院でPCIを行った患者様は一定期間の後、虚血の再評価を行います。そこで安定している患者様は当院での外来通院を卒業し、かかりつけ医での通院を継続して頂いております。本連携パスではPCIが行われた患者様に対して、退院後の冠危険因子の管理、虚血の評価のための再受診、安定した患者様のその後の継続した管理といった一連の連携を円滑に進めることを目的とします。冠動脈疾患患者者に対しては下記を中心に診療しております。

① 虚血の再発

胸部症状などの聴取に加え、定期的な心電図検査などを実施します。

② 適切な薬剤の確実な服用

冠動脈疾患の再発予防には抗血小板薬が必須です。PCI施行後急性期は抗血小板薬2剤を服用します(DAPT)。慢性期でも1剤は継続して頂きます(SAPT)。DAPTの間は患者様の状態に応じて当院にて判断させていただきます。歯科治療や低侵襲な外科手術などの折にもできればSAPTは継続して頂き、もし休薬が必要と判断されれば一度当院までご連絡下さい。

③ 冠動脈危険因子の管理

当院ではPCIを行った患者様に対し再発予防の教育をおこない、退院する際には「健康管理手帳」をお渡しし、外来にて日々の血圧や禁煙の継続などを確認します。併存疾患に關してはパス内にも注記しておりますが、特にLDLコレステロール70mg/dl未満を目標とし薬物管理を行います。

この連携パスを運用する事で患者様自身の健康意欲を向上させるとともに、当院とかがりつけ医である先生方との連携で冠動脈疾患の再発を抑制できればと祈念しております。

地域連携パス運用の皮切りとして、PCI術後連携パス勉強会を開催します。先行で運用されている刈谷豊田総合病院 浅野先生からお話しいただいた後に当院からの説明をさせていただきます。会場視聴またはZOOMでの視聴も可能ですので、ご都合つきましたらご参加いただければと思います。



循環器内科部長

谷村 大輔

日本内科学会認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本医師会認定産業医
臨床研修指導医
日本心不全学会・日本不整脈心電学会
植込み型除細動器/ペースティングによる心不全治療研修了